

地理B シラバス

科目名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
地理 B	4	2	選択必修	普通科・国際人文科	

1. 科目概要および目標

現代世界の地理的事象を系統地理的・地誌的に考察し現代世界の地理的認識を養うとともに地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2. 成績評価

中間考査や期末考査を重視して評価するが、実力テストや平素の授業態度や提出物も加味して評価する。追試は原則として行わない。

定期テスト	70	%	授業・提出物	30	%
-------	----	---	--------	----	---

3. 使用教科書・教材

帝国書院 新詳地理B
 帝国書院 新詳高等地図
 帝国書院 新詳地理資料 COMPLETE 2018
 二宮書店 基本白地図 最新版

4. 授業の展開と形態

基本は講義形式の授業である。教科担当により若干の進度の違いはあるが、地理の学習で重要な地形図の読図や統計資料を使った学習（降水量や生産高など）、主題図作成（いわゆる白地図作業）も行う。できれば簡単な「地理野外調査」も実施したい。

5. 学習方法

教科書や授業で学習する内容を理解することが最も大事である。しかし、「地理B」では取り扱う範囲が「世界地理」が中心となるので日本地理や郷土の地理（沖縄の地理）、特に身近な地域の地理的事象（たとえば商店街はどこに集中しているかやどういった仕事に従事している人が多いかなど）にも関心をはらい、態度・資質面の育成や積極的に学ぶ姿勢が求められる。

6. 履修上の留意点

(1) 科目選択をする際考慮すべき事項

地理学習の基礎は「地図に親しむ」ことである。世界地図を見て主要国はすぐ答えられる能力は必須である。また、日本の都道府県や沖縄県の市町村もすべて覚えておくことが望ましい。

(2) 主題図を作成するため、色鉛筆での作業を通して分布図などを読み取る力を育てたい。

(3) 就職・進学試験等と関連しての注意事項

地理は最も古い歴史をもつ学問の一つで、ある一定の空間〔国や県、あるいは市町村、さらに字（あざ）〕における「日常生活」が主な学習舞台である。それゆえあらゆる学問の内容を含んでいる。人文・社会科学系大学はもちろん、理工系大学や各種専門学校進学、就職試験など、人生の折りにふれて役に立つであろう。

年間授業計画

那覇西高等学校

月		節	単元	配時	マーク欄
4月	第Ⅰ部 <1章> <2章>	さまざまな地図と地理的技能 (7)	授業開き(オリエンテーション)と地図の利用法 1. 現代世界の地図 2. 地図の種類とその利用 3. 地理情報の地図化	1 2 3 1	
5月	第Ⅱ部 <1章>	自然環境と生活 (15)	1. 世界の地形 2. 世界の気候 ◎定期考査(中間) 3. 日本の自然の特徴と人々の生活 4. 環境問題	3 5 3 4	
6月	<2章>	資源と産業 (29)	1. 産業の発達と変化 2. 世界の農林水産業 ◎定期考査(期末) 3. 食料問題 4. 世界のエネルギー・鉱産資源 5. 資源・エネルギー問題 6. 世界の工業	2 4 4 4 4 2 3	
7月	<2章>	資源と産業 (6)	7. 第3次産業 8. 世界を結ぶ交通・通信 9. 現代世界の貿易と経済圏	2 2 2	
9月	<3章>	人口・村落・都市 (16)	1. 世界の人口 2. 人口問題 3. 村落と都市 4. 都市・居住問題	4 5 4 3	
10月	<4章>	生活文化、民族・宗教 (16)	1. 生活文化 2. 民族と宗教 3. 現代世界の国家 4. 民族・領土問題 ◎定期考査(中間)	4 4 4 4	
11月	第Ⅲ部 <1章>	現代世界の地域区分 (2)	1. 地域区分とは何か 2. 地域区分のさまざまなスケール	1 1	
	<2章>	現代世界の諸地域 (13)	1. 地誌の考察方法 2. 東アジア 3. 東南アジア ◎定期考査(期末)	1 6 6	
12月	<2章>	現代世界の諸地域 (12)	4. 南アジア 5. 西アジアと中央アジア 6. 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	6 3 3	
1月	<2章>	現代世界の諸地域 (11)	7. ヨーロッパ 8. ロシア	7 4	
2月	<2章>	現代世界の諸地域 (17)	9. アングロアメリカ 10. ラテンアメリカ 11. オセアニア ◎定期考査(学年末)	7 4 6	
3月	<3章>	現代世界と日本 (2)	1. 安定成長期を迎えた日本 2. 日本が抱える地理的課題	1 1	

()内は節時数

／単元終了日時

